

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401142		
法人名	有限会社トムハート		
事業所名	グループホーム緑彩苑		
所在地	千葉県千葉市若葉区中野町1872		
自己評価作成日	平成24年3月8日	評価結果市町村受理日	平成24年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成24年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

目の前に田んぼや山が見える自然に囲まれた環境の中に6年前新築された施設で設備も新しく、光がよく取り入れられる明るい居室になっています。“その人らしさを尊重する”ケアの実践に努めておりご本人やご家族の話をよく聞き、ご本人の“やりたいこと”が実現できるように努めている。掃除や洗濯等の日課や趣味・特技を發揮していただき“生きがい”を持って生活できるように取り組んでいる。「ゆったり・ゆっくり 共に時を過ごし 想いあう心を育てる家」「自分でやれる喜び・・・それが笑顔を決やさない 安らげる暮らし」の理念のもとサービスの実践に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立されて6年目のホームであるが、高齢で重度化した利用者が多く、支援には時間と根気が要求されることも多い。その環境の中で、利用者はホームの理念である「ゆっくり、ゆったり」という配慮のもと、家庭的で安心な生活を送っている。管理者や職員は、利用者が自立した生活、自分でやれる喜びを感じながら毎日を過ごせる事を、支援のもっとも大切な事と心掛け実践に取り組んでいる。明るく清潔に保たれたりリビングでは、昼間4頭の小型犬がアニマルセラピー役を担って、利用者の喜びを誘い生活の一部となっている。管理者や介護支援専門員は、より良質な介護を目差し、サービス改善に前向きに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆっくり、ゆったり、共に時を過ごし 想い合う心を育てる家」を理念とし、「自分でやれる喜び」を実現できるよう毎月のミーティングで話し合い実践につなげている。	利用者が部屋の掃除等日常生活で「自分でやれる喜び」を、理念に沿って支援することを大切にしている。施設長は、パートを含む全職員に理念を周知し共有させる事に、現時点では課題を残していると考えている。	理念の共有が、一部職員には及んでいないという気付きがある。全体会議等で理念について充分話し合い、理解と共有化を進め、実践に繋げる取り組みを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は時々民生委員の方が来訪する程度ですが今後は地域の行事への参加を進めて行きたい。地域の夏祭りには参加している。	自治会に加入しており、ホームを訪問する民生委員も自治会員である。近隣の方から古新聞が届けられるなど、協力を頂いているが進展が見られない。ホームからの働きかけが少ないという気付きがある。	高齢化、重度化が進み、買い物などは困難という利用者が多くなってきている。利用者の状況に合わせた交流となるよう、近隣への働きかけを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はできていない。民生委員の方を通じ地域との交流、認知症の理解を深め共に支えあえるような環境づくりをして行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催に、潜ぎ着ける事が出来た。今後は定期的に開催し事業所報告や意見交換をはかりサービスの向上に努めたい。	昨年来の課題であった運営推進会議が、開設されている。地域包括職員、自治会代表を兼ねた民生委員、家族代表等が参加メンバーであった。医療連携や歯科受診、災害時避難等について協議され有意義な内容となっている。	運営について外部からの意見や助言を頂ける、良い機会であると施設長は認識している。開催回数を多くし、運営のモニター役を担って頂く様、継続した取り組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上の不明な点や人員基準等の相談、事故発生時の報告をする事により、協力関係を少しでも築けるよう努めている。	市の援護課や若葉保健福祉センターとは、利用者についての連絡や相談で連絡を密にしている。市職員のホームへの訪問も定期的であり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職時のオリエンテーションの際説明・理解して勤めてもらい、既職員にはミーティング等で再確認している。	身体拘束ゼロの介護を基本としている。「身体拘束等行動制限についての取り扱い要領」を目立つところに掲示し、日々のケアの見直しに努めている。全体会議の研修で、身体拘束ゼロを周知徹底させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の観察で発見したことは、申し送り、ミーティング等で話し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け、ご家族様には随時説明し必要時資料を渡している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、必ずご家族又は後見人の方と共に説明し確認しあい、都度質問や疑問点に答えて、理解・納得のうえで同意いただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に日常の様子をお話しそれに対する意見、要望等を聴き対応している。	運営に関する利用者や家族の意見は、家族訪問時等に施設長と管理者が聴き取って、迅速に運営に反映させている。意見要望は朝礼やミーティングでも話し合い共有化されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや親睦会、休憩中等意見・提案を聞き可能なものは受け入れていく。	職員からの意見や提案は、施設長、管理者、介護支援専門員が常時間き取りを行い、対応可能なものは即時受け入れられている。課題となったものは、ミーティングで討議され運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件(休みなど)希望を取り入れている。また相談があった場合は可能な限り受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング時に勉強会を行っている、その他個々に必要に応じて指導している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会等を通じて、研修参加時などで交流を図って行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状況を理解し話をよく聞き、出来る限り要望を受け入れ安心していただくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、面談、電話でご相談などいつでも不安のないようにしている。また、いつでも面会に来ていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、面談時必要に応じて施設の紹介も行い支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人のできる事を共に行いながら、時には教えてもらいながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報を共有し、面会時の立会いや施設行事など本人とかわりが持てるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の機会をご家族に依頼したり、散歩等で馴染みの場所へ行ってみる等関係が途切れない支援に努めている。	利用者の友人が訪問する際は、ホームとして支援し、馴染みの関係維持に努めている。散歩や外出時に、積極的に近隣に声掛けを行い、馴染みの関係作りを支援している。正月には家族のもとで過ごすことを勧め、絆を強くするよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレク、散歩等利用者同士が関係を持つるようにスタッフが対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時間があつたら気軽に寄っていただく様にお誘いしている。その際情報収集に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは本人の意向、希望を把握するように努めている。困難な場合はミーティングで、話し合い出来る限り本人の意向に沿えるように努力している。	職員が把握した利用者の思いや意向は、個人票等に記録されている。朝礼や全体会議で話し合い、情報共有されている。困難な場合は、利用者の様子や顔色、指さし・身振り手振りなどから思いを汲み取り、相手の納得を得る努力をし、意向に沿っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時の情報や面会時にご家族より情報を得て、これまでの生活習慣に近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録、申し送り、ミーティング、マッサージ師、医師、歯科医師などと常に情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の記録の確認やミーティング、医師やご家族・本人の意見を取り入れ作成している。	ケアプランは、日頃の記録やミーティングで利用者や家族の意向、職員の意見を検討したものが反映されたものとなっている。介護支援専門員が中心となって作成しているが、モニタリングに於いて職員からの聞き取りが少ないという気付きがある。	管理者や介護支援専門員は、ケアプランの作成段階やモニタリングに於いて、職員からの聞き取りについて改善の余地があることを感じている。対策を講じて頂きたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、生活メモ等を個別に記入している それを元に介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者個々の生活スタイルに合わせ、可能な限り柔軟に対応し、生活の場所であることを配慮するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア等不定期に受け入れているが今後はもっと積極的に活用したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に希望を聞いている。訪問診療の医師が隔週で往診に来ている。御家族の対応が不可能な定期以外の受診には職員が付き添う等支援している。	訪問診療医が看護師と薬剤師を伴い、全員を丁寧に診察している。管理者、介護支援専門員が個々の状況を伝えている。後程、全員の状態報告書が医師から届く。薬剤師からも服薬等の確認票がくる。適切な受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回訪問している。定期以外の相談や連携等支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとの情報交換や定期的な面会に出かけ利用者の状態の把握に努め、いつでも受け入れ出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院等した場合そのまま帰れなくなることが多く見取りの経験は今までない。施設でできる事を充分説明し、納得していただく等ターミナルケアは今後の課題だと思えます。	医療ニーズが高まった場合や、医療的処置が必要になった場合には、往診医が紹介状を書いて適切な医療機関に繋げている。医療連携が構築されており利用者や家族に安心感を与えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	市の救命講習を受けたスタッフとまだ受けていないスタッフがいる。今後積極的に受講して心肺蘇生法やAEDの操作方法を学んでいきたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防管理者の下定期的に避難訓練を行う	年に2回の避難訓練、夜間を想定した避難訓練も行った。昨年の大震災後、地震想定避難訓練を実施、懐中電灯を増やしたり、対応を職員で共有している。更に、火災通報専用電話を設置したので、これを使用しての訓練を予定している。	自主的に避難訓練を実施している。設置予定の火災通報専用電話を使用している訓練には、消防署立ち会いで実施することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	近くに寄って話しかけ、命令口調の言葉遣いはしないように心がけている。	話しかける相手との位置や、口調に注意して人格を傷つける事のないよう配慮している。トイレ誘導なども、声をかけながらドアの外で待ち、付き添う場合もプライバシーを損ねないような気配りがみられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向に沿うように無理強いはない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の趣味や希望に合うように、体操、散歩、歌、ぬりえなどご本人のペースに合わせた支援をするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや体型に合うものを一緒に買いに行ったりしている、地域の美容院へ出かけたりもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを聞きおやつなどに順次取り入れている。食材は業者委託で利用しているが、野菜の下準備など声かけと一緒にやっている。	食材を業者委託し調理はホームで行っている。アレルギー体質や服用薬を配慮した食事に行っている。テーブル拭きや自分の湯呑みを洗ったり、玉葱の皮むき等ができる利用者は職員と一緒に調理を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を確認し、少ないときには捕食や時間をおいて提供している。水分は10時、3時以外にも随時好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。スタッフによる見守り、一部介助を行っている。ご本人の希望により訪問歯科により口腔ケア及び治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗・失禁即おむつとならないように個人の排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援している。	個々の排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導することで、日中は紙オムツを濡らさずに済む効果を上げている。失敗、失禁即オムツにしない排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り排泄の観察をし便の状態も観察して水分摂取を心がけ、運動等促し、必要に応じてくするも使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は3回/週と決まっているがご本人の体調、希望によりシャワー浴等何時でも対応している。体調悪く入浴できないときは清拭、足浴等で対応している。	全ての利用者に、週3回の入浴を目標としている。浴槽内外に手すりが設置され、滑り止めマットも使用して安全に配慮している。特に、立ち上がるのが困難な利用者を、職員2～3人で抱きかかえて、湯船でゆっくり入浴を楽しめる様配慮し、喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良等ない方は日中はリビングにて他利用者とお話したり、ゲームやお茶を飲んだりしてゆっくりと過ごす。夜間は夕食後ご自分が就寝したくなるまではリビングにてテレビを観たりお話しして過ごす。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットの利用者の服薬表を作り誰がどんな薬を服薬しているかスタッフに理解してもらい誤薬、副作用に充分注意するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を活かしながら、生活の中で洗濯や調理などの役割を持っていただいたり、歌やぬりえ、ゲームなどご本人の意向に沿った気分転換が出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物は日常的に行っている。企画を立てて数名ずつの外出も行っている、	自然に恵まれた環境にあり、玄関を一步出ただけでも十分に外気浴が出来る。テーブルを出し、お茶飲みで気分転換を図っている。散歩の際、近隣住民から声かけを頂いたり、花を見せて頂き交流を深めている。公園に桜を見に行くなど、外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際ご本人にお金を持っていただき、希望のものをご自分で購入出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したいときは事務所で預かり投函している。電話はいつでも取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースのリビングの壁には利用者様の作品を飾ったり、玄関、棚等に季節の花を飾って落ち着きのある居心地よく過ごせるように工夫している。	リビングには、利用者の塗り絵、貼り絵、お雛様の作品や、施設行事の輪投げ大会や花火の写真が貼られている。ゆったりと落ち着ける場となっている。犬と一緒にいることが、利用者の癒しになっている。それで入所を決め、孫も面会に来るといふ家族もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのリビングとは別に壁際にベンチのある空間があり大勢で活動したり、ご家族とのふれあいの場所として使っていたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に今まで自宅に使用されていた家具・持ち物は自由に持ち込んでいただき、住みなれた居室環境を提供できるように配慮している。	利用者が出来る範囲で部屋の掃除を手伝っており、清潔に保たれている。本、写真、使い慣れたテレビやスタンド、仏壇を置き、自分の部屋として居心地よく暮らせるよう、配慮が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下への手すりの設置、各自居室前の表札、トイレ等にわかりやすいように表示、バリアフリーなど安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		